

教育学部

生活科学プログラム

取得できる学位 ★学士（生活科学）

■ プログラムの概要と人材育成のねらい

本プログラムは、生活者主体の新しい社会システムが求められる現代において、日常生活における生活行動を科学的に追求し、社会の動静との関連から生活行動を総合的にコーディネートできる人材養成を実現するべく、実践的キャリア形成に指向した教育課程で構成されている。入学当初から人間の生活行動に関する様々な知識・技能について、衣生活・食生活・住生活・生活経営の4領域を基軸にして基礎的かつ系統的に学習を行い、学年の進行にともない各領域においてさらに深化した知識・技能を習得する。

総合大学としての新潟大学で学ぶ利点を活かし、学生個々のスキル形成に応じて必要とされる基礎的、専門的な知識・技能の習得を可能にし、加えて広い視野と豊かな教養を持ち、本学の理念である自律と創生の精神に富んだ人材の育成を目的とする。本プログラム修了者は、食品関連、アパレル関連、住宅関連企業や教育職員などへの就職、あるいは大学院への進学などの進路を選択し、新潟市をはじめとする新潟県内、国内外において人格・能力ともに優れた人材として活躍することが期待される。

■ プログラムの到達目標（期待される学修成果）

| 1 | 知識・理解

- a) 広い視野と深い教養。
- b) 自分を取り巻く生活環境の課題を説明できる。
- c) 生活環境の課題を解決する基本的なデータ処理の方法を説明できる。
- d) 生活環境の課題を解決する方策を説明できる。
- e) 食生活に関連する基本的案事項を理解し、例を挙げて説明できる。
- f) 住生活に関連する基本的案事項を理解し、例を挙げて説明できる。
- g) 衣生活に関連する基本的案事項を理解し、例を挙げて説明できる。
- h) 生活経営に関連する基本的案事項を理解し、例を挙げて説明できる。

| 2 | 当該分野固有の能力

- a) 自分を取り巻く生活環境の課題を捉えることができる。
- b) 生活環境の課題を解決する方策を提案できる。
- c) 食生活に関連する課題を捉え、解決方法を見出すことができる。
- d) 住生活に関連する課題を捉え、解決方法を見出すことができる。
- e) 衣生活に関連する課題を捉え、解決方法を見出すことができる。
- f) 生活経営に関連する課題を捉え、解決方法を見出すことができる。

| 3 | 汎用的能力

- a) 語学・情報リテラシー・コミュニケーション。
- b) 共通した目的達成のために、他者と協議して個々の目標を設定できる。
- c) 実験実習に於いて、計量、計測、記録を正確に行うことができる。
- d) 実験や調査などで得られたデータを統計処理し、整理・活用できる。
- e) 得られた成果について口頭・文章によって分かりやすく表現できる。
- f) 生活場面における様々な事象を多面的にとらえ総合的に評価できる。

| 4 | 態度・姿勢

- a) 様々な生活場面における状況に関心をもって接することができる。
- b) 自ら積極的に問題に取り組み、解決することができる。
- c) 他者と協同・協調して問題解決に取り組むことができる。
- d) 生活者に対して働きかけようとする態度・姿勢を身に付けることができる。

■ プログラムの履修要件

- ・幅広い分野にわたり、高校卒業レベルの学力を確実に習得している。
- ・専門科目の学習に必要な、高校卒業レベルの基礎学力および基礎的実技能力を有する。
- ・円滑な人間関係に必要なコミュニケーション能力を備えている。
- ・生活の質の向上に必要な様々なことについて、興味・関心があり、日常生活をよりよいものにしようとする姿勢をもっている。

■ カリキュラム立案と学修方法についての基本方針

- ・1・2年次では生活科学全般の基礎的・導入的授業科目（必修科目）を開設し、3・4年次では衣生活・食生活・住生活・生活経営の各領域での専門性に深化した授業科目を必修科目および選択科目として開設した。また、他学部を含む本課程以外の関連する専門科目についても自由科目として履修できるようカリキュラムを編成している。
- ・講義科目に対応する演習・実験実習科目を多く設置し、各4領域に開講されている講義科目に対応する演習・実験実習科目を多く開講している。
- ・卒業研究を必須とし、確固とした専門的力量の育成を考慮している。
- ・各種資格の取得を積極支援するべく、各資格に対応する本課程開設科目および学部内外の授業科目を組み合わせ、衣生活・食生活・住生活・生活経営の4領域のモデルカリキュラムを設定する。